

資料編 1

用語集

目次

資料編 1. 用語集.....	1
-----------------	---

資料編1. 用語集

用語	内容
重要港湾	国際戦略港湾および国際拠点港湾以外であって、海上輸送網の拠点となる港湾その他の国の利害に重大な関係を有する港湾として政令で定められた港湾。 ¹
事業者	本指針では、中城湾の湾内・沿岸において、港湾や漁港、河口整備等、各種整備を実施する事業者全てを指す。
干潟	海岸景観を構成する生息場所類型のうち低潮時に海面から露出し、高潮時に海面下に沈む潮間帯の平坦な緩傾斜の砂や泥の浜 ² 。
横帯	魚類では、一般的に頭を上にしたときの方向を縦としており、体の線の向きに沿った帯を縦帯、体の線の向きと垂直な帯を横帯とする。 ³
癒合膜	2枚ある腹鰭が癒合し吸盤状となったもので、ハゼの仲間によく見られる。膜蓋とも。
ふ化仔魚	本指針では、ふ化し、中城湾沖合に移動分散するまでの仔魚のこと。
仔稚魚	本指針では、ふ化後に中城湾沖合に移動分散し、浮遊生活期を送ったのちに、泥質干潟へ移動・着底するまでの仔魚・稚魚(各鰭の棘・条が定数になったもの)のこと。
着底幼稚魚	本指針では、変態着底し、着底生活期を過ごす稚魚のこと。
滞筋(みおすじ)	本指針では、干潮時、潮の引いた干潟に残る水の筋、潮だまり、微地形を指す。通常滞筋とは、浅い海や河川などで、周辺の実地や河床より水深が深く、船の航行等に適する水路状の深みを滞(みお)と呼び、滞の筋道を滞筋という ⁴ 。
C.D.L	中城湾における工事事業基準面(W.D.L)である。工事事業基準面とは、港湾施設の設計・施工時の基準面(高さの基準となる水面)で、基本的には最低水面(海図の水深基準(水深0m)、基本水準面)が採用される。 ⁵
含水比	土(底質試料)を乾燥させた際の質量に対する、試料に含まれる水の質量との比率 ⁶ 。 下記の計算式で求められる。 $\text{含水比}(\%) = \frac{\text{底質試料に含まれる水の質量}}{\text{乾燥させた底質試料の質量}} \times 100$

¹ 出典:国土交通省、総合政策 交通関係統計資料 港湾調査 用語の解説(<https://www.mlit.go.jp/k-toukei/kowanyougo.html>)、

² 出典:沿岸域環境辞典(日本沿岸域学会編、共立出版、2004年)

³ 出典:ハゼガイドブック(林公義・白鳥岳朋著、阪急コミュニケーションズ、2003年)

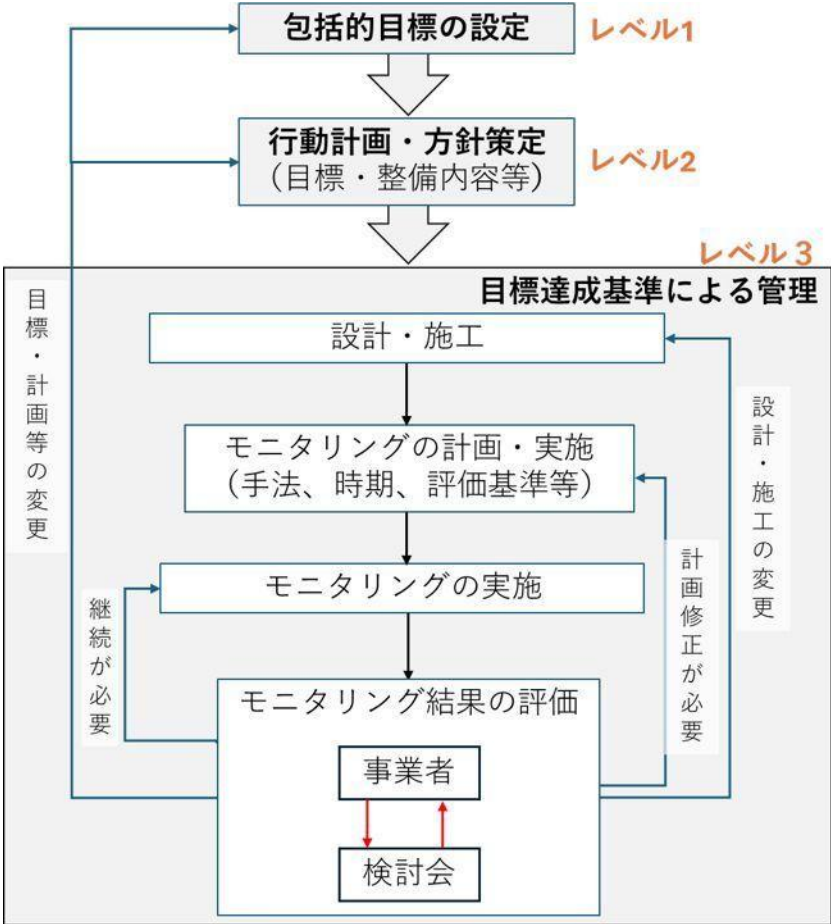
⁴ 出典:海城環境用語集(港湾空港タイムズ、平成18年)

⁵ 出典:港湾工事における高さの指標(<https://www.mar-gps.or.jp/kaisetsu/img/kaisetsu05.pdf>、2025年8月22日閲覧)

⁶ 出典:JIS A 0207:2018 地盤工学用語 より作成。

用語	内容
液性限界 塑性限界 塑性指数	 <p>図.土の体積と含水比の関係</p> <p>液性限界は、土が塑性状態から液状に移る際の含水比の値である。この値を上回ると、形を維持することが難しくなる。</p> <p>塑性限界は、土が塑性状態から半固体状に移る際の含水比の値である。この値を下回ると亀裂が生じやすく、変形が難しい。</p> <p>塑性指数は、土が塑性を示す含水比の範囲を表す指数、液性限界と塑性限界の差のこと。この値が大きいほど、塑性的な土（安定して変形可能な土）であることを表す（左図参照）。</p>
概算生息数	<p>生息密度に生息面積を乗じて得られた数値を示した着底幼稚魚の個体数のこと⁷。</p> <p><算出方法></p> <p style="padding-left: 40px;">生息密度＝任意の面積の生息数÷任意の面積…(*)</p> <p style="padding-left: 40px;">概算生息数＝生息密度*の平均×生息面積</p>
最大概算生息数	<p>各年度で行われた調査の最大の概算生息数。</p>
生息地周辺	<p>本指針では、現在トカゲハゼが確認されている生息地(調査地点)に隣接し、生息地と連続的につながっているまわりの環境のこと。</p>
試験造成地	<p>新港地区において事業実施にあたりトカゲハゼの保全対策として試験的に造成された人工干潟のこと(5章参照)。</p>
底質改良区	<p>泡瀬地区において底質改良が行われている区域のこと(5章参照)。</p>
順応的管理	<p>自然の環境変動により当初の計画では想定していなかった事態に陥ることや、歴史的な変化、地域的な特性や事業者の判断等により環境保全・再生の社会的背景が変動することをあらかじめ管理システムに組み込み、目標を設定し、計画がその目標を達成しているかをモニタリングにより検証しながら、その結果に合わせて、多様な主体との間の合意形成に基づいて柔軟に対応していく手段である。</p> <p>順応的管理手法は、①包括的な目標の設定(レベル1)、②目標を実現するための具体的な行動計画・事業実施方針の策定(レベル2)、③目標達成基準による管理(レベル3)の3つのレベルからなる手順の適用が考えられる。</p> <p>レベル1:「目的の設定」→「包括的目標の設定」</p> <p style="padding-left: 40px;">意思決定者と関係者が、現状の課題や自然再生の方針について共通認識をもち、何を達成しようとするかのねらいを明確にし、包括的目標を設定する段階。</p> <p>レベル2:「個別目標の設定」→「具体的な行動計画・事業実施方針」</p> <p style="padding-left: 40px;">包括的目標を達成するために、具体的に何を実施するかの行動計画や事業実施方針を策定する段階。</p> <p>レベル3:「管理手法の設定、モニタリング、レビュー」→「目標達成基準による管理」</p>

⁷ 出典:令和5年度中城湾港生物調査報告書(沖縄県土木建築部港湾課、令和6年)

用語	内容
	<p>具体的な行動計画・事業実施方針が達成されているかについてモニタリングを行い、具体的な目標達成基準を指標として定期的に評価しながら管理手法のレビューを行う段階。モニタリングの結果により目標達成基準が達成されていないと判断される場合は、管理手法の改善を検討したり、事業の成果の状況によっては目標達成基準を見直す。さらに、例外的な場合によっては具体的な行動計画・事業実施方針の見直しを行うこともあり得る。⁸</p>  <p style="text-align: center;">図 順応的管理の考え方</p>
上旬	本指針では、1日から10日までを指す。
中旬	本指針では、11日から20日までを指す。
下旬	本指針では、21日から月末までを指す。
上げ潮	低潮から高潮までの間に海面が上昇してくる、その海面潮位が上昇する状態のこと ⁹
下げ潮	高潮から低潮までの間に海面が下降してくる、その海面潮位が下降する状態のこと ⁹ 。

⁸ 出典:順応的管理による海辺の自然再生(国土交通省港湾局監修、平成19年3月)(mlit.go.jp/kowan/handbook/)

⁹ 出典:海域環境用語集(港湾空港タイムズ、平成18年)

